

注意が必要な不整脈の症状

谷ロクリニック
谷口靖広 先生

「布団に入ると胸が躍るような感じがする」「突然脈が乱れて胸苦しい」など、不整脈の症状はさまざまですが「このままでは心臓が止まってしまうかもしれない」と不安感を覚えることも少なくありません。また、まったく無症状の不整脈もあります。

健康な心臓は1分間に50～100回規則的に拍動し、1日でドラム缶40本ほどの血液を全身に送り出しています。この拍動のリズムが乱れたものが不整脈で、拍動が速くなる頻脈と、遅くなる叙脈に大別されます。不整脈＝動悸とは限りません。一番注意が必要な症状はめまいや失神です。不整脈で？と思われるかもしれませんが、失神の多くは脳貧血。つまり脳に行く血液が足りなくなるために起こります。極端な叙脈も極端な頻脈もどちらも脳貧血を引き起こすことがあります。これらの不整脈が持続することは心停止と同じ状態であり、実際これが突然死の主な原因と考えられています。一方、無症状であっても注意が必要な不整脈の一つが心房細動です。脈と脈の間隔が規則性無くバラバラとなります。心臓の一部が動かなくなり心臓内に血栓（血の塊）ができてしまい、この血栓が脳梗塞の原因となるのです。「脈が飛ぶような」「数拍に一度脈が強く打つような」動悸は期外収縮と呼ばれる不整脈が原因のことが多く、基本的には良性のものと考えられています。ただし、他の心疾患の合併や、期外収縮が数拍以上連続する場合は治療が必要なこともあるため確認の検査が必要です。

1. 動悸がした後に血の気が引くようなめまいがした
2. 特別なきっかけもないのに突然意識を消失した
3. 突然、速い鼓動が始まり数10秒～数時間持続した
4. 血圧測定の際に自動血圧計の音の間隔がバラバラだった
5. 酒を飲んだ翌日は息切れが強い
6. 薬を飲み始めてから動悸が起こった。

このような症状があれば治療が必要な不整脈の可能性が高く、注意が必要です。